



『あゆみ』  
〈未来をつくる、その一歩〉



茶道裏千家淡交会青年部

北海道ブロック創立五十周年記念誌

利休居士道歌

その道にいらんと思ふは  
我身ナリがらぬ師匠ありけれ

## ことば

私達は茶道の真しんの相すがたを学び、それを実践にうつして、たえず己れの心をかえりみて、一盃を手にしては多くの恩愛に感謝をささげ、お互いに人々によって生かされていることを知る茶道のよさをみんなに伝えるよう努力しましょう。

一、他人をあなどることなく、いつも思いやりが

先にたつように

一、家元は親、同門は兄弟で、共に一体であるから、

誰にあっても合掌する心を忘れぬように

一、道を修めなお励みつつも、初心を忘れぬように

一、豊かな心で、人々に交わり、世の中が明るく

暮らせるように

## 青年部綱領

われわれ茶道を愛好する

青年としての自覚により

淡交会の諸活動に協力し、

お茶を通じて

良識ある近代人としての

人間形成に努め、

同志的結合によって

結ばれた友情と情熱で

正しい地域社会発展の

ために努めよう。

一盃からピースフルネスを  
一盃で感謝・合掌・仕え合い

- 一、茶の湯に出会う、日本に出会う  
日本を知らない日本人の為の架け橋となろう
- 一、良い先生の育成とそれに伴う良い社中づくり  
思いやりある茶人になることを目指そう
- 一、誇りと情熱  
「教授者」の一人一人が地域社会における茶の湯をより高めるべく、自己の修練に励もう
- 一、「集いの場」としての淡交会をより豊かに  
茶の湯を学ぶ人々の一体感を高揚し、社中の帰属意識の啓発につなげよう  
支部・青年部・学校茶道、そしてお数寄者を含めた組織の連携と円滑な運営に心掛けよう
- 一、文化を欲する中高年層へのアプローチ  
伝統文化に関心の高い世代に茶の湯を伝えよう
- 一、若い茶の湯者の考えに心を向ける  
世代間の理解を深めよう
- 一、時代に適応した茶道人を目指す  
デジタル化社会に適した一碗の交流を心掛けよう

## 目次

利休居士道歌	歴代ブロック長 祝辞	9
ことば・青年部綱領	宮川寛隆 全国委員会委員長 祝辞	16
スローガン	武田恭子 北海道ブロック長 ご挨拶	17
令和三年度・四年度 家元指導方針	北海道ブロック創立五十周年記念大会次第	18
坐忘齋千宗室御家元 祝辞	北海道ブロック五十年のあゆみ	19
鵬雲齋千玄室大宗匠 祝辞	北海道ブロック歴代役員紹介	29
丹心齋千宗史若宗匠 祝辞	令和三・四年度北海道ブロック役員紹介	32
吉野次郎 北海道地区地区長 祝辞	北海道ブロック創立五十周年記念・ロゴマーク紹介	34



## 祝 辞

千原 宗匠

茶道裏千家淡交会青年部北海道ブロックが創立五十周年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

この度の記念大会開催にあたり、これまでご尽力いただいた歴代ブロック長で全国委員会委員長の宮川寛隆君、前ブロック長の高玉美穂君、現ブロック長の武田恭子君をはじめ役員・会員、関係各位に深甚なる謝意を表します。この周年を契機に青年部会員の皆さまには、歴代役員をはじめとする先輩方や次代を担う人達と顔を合わせ、過去・現在・未来を繋ぐ良き機会としていただければと願っております。

さて、利休居士が私たちの進む方角を定めてくださってから四百五十年近くが経ちます。私たちはその進む方角ということ「こうすればいい」とだけ受け取ってきた部分があったかもしれません。いつまでも倒れることのない道標があっても、その方向に進む道筋は自分たちで切り拓いていかななくてはならないものです。これまで大勢の先輩方が藪を掃い、川に橋を架け、定められた方向に進みながら道を拓いてこられました。

昨年来、新型コロナウイルスが猛威を振るい、今までと全く違う世の中になっています。人と接する際には「3密」を避けるという制約が生じ、以前のように茶の湯を楽しむことが難しくなりました。しかし、不安な中でも工夫をすればお茶を楽しむことができます。玄々斎宗匠は江戸から明治へと時代が大きく転換するときに点茶盤を考案され、圓能斎宗匠は衛生観念が高まってきた明治の末に各服点を好まれた経緯があります。私はこれまで大変な時代を乗り越えてこられた歴代の宗匠方のことを紐解き、令和の時代のこの藪を切り拓く道具として各服点を現代に合う形にアレンジして皆さまにお示ししてまいりました。濃茶は飲み回しを本来のものとしてずっと続いていますが、そのバリエーションとして各服点が役に立ち、多くの皆さん方と一緒にいろいろと考えるきっかけになれば幸いです。

このような時だからこそ、私たちは今まで以上にお互いに気を配り、相手のことを本気で慮ることができるはずです。お茶一服をいただくときでも客は亭主のそのずつと奥にあるものに対して深く感謝をし、亭主は自分が点てるお茶にどれだけ多くの人が大変な思いをして関わってこられたか、そういうところにも思いを巡らします。そのような気持ちを皆で確認しあえる時期になることを願っております。

結びに、貴ブロックの今後益々のご発展と、皆さま方のご健勝を祈念し祝辞といたします。

合掌



## 祝 辞

千玄庵

深秋の好季節に、北海道ブロック創立五十周年記念大会をオンラインにて開催されま  
すこと、心よりお祝い申し上げます。

貴ブロックは、昭和四十年に小樽支部青年部が発会したのを皮切りに、各支部にそれ  
ぞれ青年部が結成され、同四十五年に北海道ブロックが創立されました。爾来、当地に  
おいて裏千家茶道が大きく発展を遂げて参りましたのも、歴代ブロック長はじめ、現ブ  
ロック長の武田恭子氏、折々の役員・会員のご努力があったればこそであり、深甚なる  
謝意を表します。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の大流行により、日本のみならず世界中が大  
な混乱に見舞われています。このような時こそ人の値打ちというものが分かります。神  
仏の教えは正しく見ることの大切さを教えてくれます。八正道とは人間の正しい生き方  
を示したのですが、私は禅の師匠から八正道と共に「無功德」を教わりました。中国  
の梁の武帝が達磨大師に「自分は色々よいことをしたがそれに対しての見返りは」と尋  
ねたら「並に無功德」。「自分がよいことをしたと吹聴してはしまいだよ」、と答えられ  
たそうです。慈善をするのは当たり前です。人は生きるために必死に日々を過ごしてい  
ますが、そうした中でも何か他の人に対して手を差し伸べる器量を持つ事が必要だと、  
この度の感染症の流行でしみじみ思った今日この頃です。医療従事者はもとより、手を  
差し伸べて下さった多くの方々に感謝します。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、祝辞といたします。

台掌



## 祝 辞

# 千宗史

茶道裏千家淡交会青年部北海道ブロック創立五十周年の記念の大会が開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

コロナウイルスによって茶の湯のあたりまえはあたりまえでなくなりました。濃茶の回し飲みが最たる例でしょうが、細かいところを挙げればキリがありません。今後コロナ禍が収まったとしても、元のように戻る保証もありません。

変えたくないことも沢山ありますが、時機であると捉えてみませんか。いわゆる「古き良き」は残しつつも、茶の湯をこのような情勢を含めた令和の新時代に対応させていく時期が来たのではないのでしょうか。そうであるならば、変わらざるを得ない現状をなるべくポジティブに捉えることのできるような「変化に対する適応力」も

また私たちに求められてくる訳です。

世情と同じく、お茶の世界でもオンライン茶会をはじめとした様々なwebでの催し事が増えてまいりました。便利だと感じはじめた方、未だ違和感を覚える方、いろいろな考えがあると思いますが、どうしたって時代はどんどんデジタルの方へと向かっていくのです。それに抗うことなく仲良く歩は進めつつも、過デジタルとでも言いましょうか、それ故の茶の湯をはじめとしたいいわゆるアナログな文化への回帰の需要のようなものも出てくるかもしれませんね。ともかく、私達もまだまだ手探りの状況ではありますが、皆さんとこの難しい時代を共に考え、そして共に歩んでいければと思っています。

末筆ながら、この記念大会開催に際しまして尽力された皆様に敬意を表すると共に、貴ブロックの今後益々の発展、そして皆様方のご健勝を祈念して祝辞とさせていただきます。



## 青年部の一層の充実・発展に期待

北海道地区地区長 吉野次郎

茶道裏千家淡交会青年部北海道ブロックがこの度創立五十周年を迎えられましたこと、誠にめでたくございます。心よりお喜び申し上げます。

また、日頃よりブロック長を中心に全道十七青年部が一体となり、親支部の支えとなり、地域貢献ならびに裏千家茶道の発展に取り組み、輝かしい成果を挙げておられますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

昭和四十五年に青年部北海道ブロックが結成されて以来、五十年という歳月を刻んで今日を迎えられた訳ですが、この間我国では高度経済成長を経て、その後のバブル崩壊を経験し、そして現在は人口減少と少子高齢化の進行の中でかつてない厳しい状況にあります。

加えて、昨年よりの新型コロナ禍により、社会全体も私達の生活も大変な影響を受けており、その対応にも迫られております。

この点に関しては、青年部で早くから取り組まれている「ITの活用」や、総本部で進めている「密を招かない研修体制のあり方」など、着実に進められておりますが、早く私達が慣れることと、一層の充実が求められているところであります。

さて、茶道は日本の文化そのものであり、裏千家淡交会の活動を通じて、私達は常にその良さを国民に広く伝え、国民の心の安定と世界平和の実現のために、前進していかねければなりません。そのためにも組織の中核をなし、将来を担う青年部の充実強化が、期待されているところであります。

これ迄の皆さんの御努力に感謝を申し上げ「五十年の歴史を礎」に、青年部北海道ブロックが一層充実発展されることを御祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



第二代ブロック長 故 余 湖 宗 汀

## ブロック四十周年を迎えて

ブロック四十周年心よりお祝い申し上げます。

ブロック創定期より関係しておりますと、よくぞ今日迄と考えざるを得ません。と申しますのは、一般社会と同様に、十年単位で、大きい小さいはともかく、波がありました。その最大の継続している波は、少子高齢化であります。同時に、その間世の中の価値観の多様化と、生活様式の変化で、日本の伝統的な習性には、暗い影響が落ち始めた事があります。今日迄、生活文化としての、茶道の一般化は、多くの人々に、一盤の楽しさと、心の高揚に大きな影響を与えてまいりました。茶の心の日常性が受け入れられたのであります。処が、大波、小波の影響が、ここ数年の間で、随所に見られるようになりしました。その一番顕著な例は、会員の減少であります。この傾向が、これから先も続くようでありますと、茶道の一般化が、以前の特殊化した存在となり得ないのであります。

今日迄青年部活動に依って培われた茶心の豊かさを、それぞれの地域社会で、いろいろな姿で、各青年部が奉仕して来た実績は、高く評価されなければなりません。

今日の世情で、一番求められているものは何か、それは、正常な人間関係の構築であります。

青年部、学茶を含めた淡交会が、素晴らしい人柄の集団組織である事が、大波小波に抵抗する唯一の杭であると考えます。今後共、部員お一人々が、多くの人々に、人生の宝が、これ程身近かに存在している事を、身をもってお示し願いますようお願いいたします。

(ブロック四十周年記念誌より)



第三代ブロック長 徳 丸 宗 明

## 零からのスタート

ご宗家と総本部からご指名いただいて、当時、旭川の経済人「小泉さん」、帯広の茶人「余湖さん」、そして札幌からは私「徳丸」の三人が、空っぽの頭を抱えて集まり途方に暮れていました。

そこで最年長の小泉さんの一言「最年少の君に委せる」これが「北海道ブロック」立ち上げの原点となりました。この三人組が、親先生はじめ皆さんのお力添えをいただきながら継ぎの十数年ありますが、北海道ブロックの草創期と言えるでしょう。

ただ一つの功績とでも言うのでしょうか、後に今日庵執事になられた、当時総本部の村上利行様から「あの時作成された北海道ブロック要覧」は、その後の活動に大変役に立ちましたよ」と言っていたことが、嬉しかったです。

こうして、この五十年間を継ぎ発展させて来られた、若い皆さん方の目覚ましいご活躍と発展に、心から拍手を贈ります。これからが、益々楽しみです。

合掌

## 祝 辞



第四代ブロック長  
故 津留崎 哲彦

茶道裏千家淡交会青年部北海道ブロック創立三十五周年、誠に  
おめでとございます。私、淡交会青年部に入会したのが、昭和  
四十七年十月二日、空知支部青年部、設立準備会が滝川市江部  
乙町専光寺（空知支部支部長手島二智磨氏）宅に集い、青年部設  
立総会となり、八名の青年が集まりました。

この時より空知支部青年部を任命され、以後十三年間部長を務  
めました。昭和四十九年総本部より認証されました。同時に北海道  
ブロックに加入し、余湖宗汀氏のもと青年部活動に専念いたしました。  
昭和五十三年九月、空知支部青年部主管にて、青年部ブロック総  
会を開催し、秋の影色を会場一杯に広げ、千坂秀学氏より絶賛の評  
を戴き、会員一同大喜びいたしました。

昭和五十六年ブロック長徳丸宗明氏の後任として、北海道プロッ  
ク長に推薦を受けましたが、時期尚早とは思いましたが、余湖氏、  
徳丸氏のご指導を受け一年を終わりました。

而しこの一年というもの、只、夢の中のような気がして、思い出す  
ことができません。

昭和五十七年淡交会青年部全国パスト委員を拝命、昭和六十年  
空知支部幹事、平成五年空知支部参与、青年部相談役、平成十五  
年より空知支部顧問、現在に至っております。青年部相談役も継続  
しております。

「盃からピースフルネスを」、先代お家元様の提唱により、今後も  
空知支部と青年部の皆様と共に、生涯精進する事と思ひます。

どうぞ青年部の皆様、お元気で、茶道に専心されますよう。

（ブロック三十五周年記念誌より）

## 三十五周年に寄せて



第五代ブロック長  
高橋 宗臣

淡交会青年部北海道ブロックが、創立三十五周年を迎えられまし  
たことは、誠に意義深く心よりお祝いを申し上げます。

親先生のお茶室における稽古だけに留まらず、支部の行事・プロッ  
クの催し・全国大会等へ参加させて戴き、研修の機会に恵まられま  
した。その当時としては、精神的にも身体的にも、又時間的にも経  
済的にも決して容易なことではありませんでした。今、省みま  
すと、この体験は、私の人生において重要な役割を果たしていたよ  
うに思われます。特に日中茶道文化交流団員として訪中させて戴  
きましたことは、得難い心の糧となりました。中国の若い党員から、  
日中戦争の謝罪と賠償とを求められ、ホトホト閉口させられてか  
ら、早や四半世紀。世代が交替してもコミュニティの体制下では、  
緩和されるどころか、むしろ増幅し、増大しているのが現実で、こ  
の事態は憂慮されるべきなのに、関心が払われていないことは悲し  
いことでもあります。

「神に供え、人に勧め、吾も亦戴く」そのお茶の「盃からピ  
ースフルネスを」と言うお茶の一面が私を茶道に導きました。間接的  
で働きはないと思うかもしれませんが、茶道の心は国内には安泰  
を、世界には平和を導き出す働きがあります。

茶道への尚一層の御執心・御精進のほどを心より祈念申し上げます。

合掌

（ブロック三十五周年記念誌より）

## 祝 辞



第六代ブロック長  
新田 宗粹

北海道ブロック創立五十周年おめでとうございます。

今、あらためて過ぎし日のこと、お世話になった方々のことなど  
懐かしく思い出しております。沢山の思い出の中でも忘れられないの  
は東京の全国大会の折「流水の詩」のテーマで道東支部の方々のご  
協力により、本物の流水を展示し参加者をびっくりさせたことなど  
です。流水を沢山用意して下さった支部、北の浜辺でつんだ浜ナス  
の花びらを乾燥させ用意して下さった支部、その花びら一ひらお湯の  
中に浮かべ浜ナス香煎として呈茶したり、皆で一生懸命やったことは  
懐かしい思い出として深く心に残っております。

また、ある時は釧路で行われたブロック研修会に今は亡き

伊住政和様が奥様とご出席下さり、係が釧路空港にお出迎えに行っ  
ているはずが突然お二人で会場に現れ中標津空港にお着きになられ  
たことでびっくりしました。遠い昔の思い出です。

数十年後の今日も懐かしい思い出の数々は心を豊かにしてくれま  
す。

皆様のご活躍をお祈り致しております。

## 祝 辞



第七代ブロック長  
中野 宗晴

青年部北海道ブロックが五十周年という節目を迎えますことを心  
からお祝い致します。諸先輩が創意と工夫をもって北の地の青年部  
ならではの姿を求め続けてきた半世紀の歴史です。

振り返って北海道ブロックが全国大会で初めて茶席を担当した時  
のことを思い出しています。各青年部の皆さんが北海道大学の旅  
館に泊まりこんで、それぞれのアイデアを出し合い、知恵を絞って  
北海道ならではの席を作り上げました。待合には網走の流水ートン  
を置き、点前座の背景は美瑛の丘の風景、洞の入ったセンノキを切  
り削って作った立礼棚

（鵬雲齋お家元からお印を頂く栄に浴しました）、サイロ型の水指な  
ど一つ一つを思い出します。

今、感染症の流行というかつて経験したことのない社会状況にあっ  
て、自分たちの足元を見つめ、少しだけ背伸びして一歩を進める。  
この大地に根づいたフロンティア精神で清々しい北のお茶の道を歩ん  
でいってください。

大きな希望と期待を込めて。



## 祝 辞



第八代ブロック長  
大八木 宗香

淡交会青年部北海道ブロック創立五十周年を迎えられますこと、誠におめでとうございます。  
コロナによりオリンピックと同じくプラス一年となり、前・現ブロック長をはじめブロック役員の皆様におかれましては、ご準備等諸々沢山の想いがあつたことと思います。

青年部の皆様の叡智とご努力により前向きに進めて下さり、開催されまことありがたく、心より感謝申し上げます。  
四十年前、大先輩が全国委員長の時、「一皿からピースフルネスを」のもと、第三回初日中友好文化交流裏千家の船に北海道ブロックの一員として参加、その後二〇〇〇年までに就航された「グナム・サイパン」「父島・黄硫島」慰霊の船を含めて北海道ブロックメンバーと共に参加乗船し、多くの出会いと、はかりきれない貴重な体験をさせていただきましたことは、本当に幸せなことでした。

二十五年前、十七支部二十三青年部となり、全国大会二十五周年行事、第十一回全国大会に向け一〇〇日四〇〇回リレー茶会北ルート茶道会館にて擔泉齋月澗宗兎宗匠ご臨席の下A・B各コースにご染筆と茶杓のセット伝達。毎日実施報告書はFAX！広い北の大地を昼夜を問わず移動は各青年部の熱き心と想いの賜物です。

二〇〇〇年青年部を卒業し二〇年、青年部時代に温かく見守り育てて下さいました親先生方の年齢に近づいております。  
時は静かに日一日と過ぎ、近い未来、共に青年部を歩んで来た北海道各地の同志の皆様と会い、手を取り語り合える時を楽しみに、今は一人一皿の茶を点て人と人とのつながりを大切に有りたいと思います。

今年度北海道ブロックから全国委員長が就任されましたことは心強く嬉しい慶びです。  
北海道ブロックの皆様が時代に即し歩みを進め精進され、ご活躍されますことを心からお祈り申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 祝 辞



第十代ブロック長  
岡部 宗裕

北海道ブロック創立五十周年誠におめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。これも偏に、お家元様はじめご宗家の皆様、総本部、親先生方のお力添えの賜物と思えます。

振り返ってみますと、走馬灯の様に色々な事が思い起こされます。時には楽しく時には苦しく様々な経験をさせていただきました。活動を通じ培った友情は今も健在で、私の宝物となっております。

色々な活動を通じて、繋がりを築き、楽しみを共有し、活性化へと繋がっていくものと思えますが、今はコロナの影響で、活動も今までの様にはいかないと思えます。恵まれた時代を過ごして来た者としては申し訳なくさえ思ってしまう。でも、このような状況下にあつても、創意工夫をし、臨機応変に対処しながら一歩一歩前進されている姿はとても頼もしく思えます。

どうぞ皆様で益々ブロックを盛り立て、未来へと繋いでいっていただきたいと思えます。

微力ながら応援すると共に期待しております。  
今後、益々のブロックの発展と皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

合掌

## ブロック五十周年に寄せて



第九代ブロック長  
成田 宗貴

北海道ブロック創立五十周年、おめでとうございます。

五十年という長い歴史は、多くの先輩たちが社中を超え、支部を超えて友情の絆をリレーして繋げてきた歴史です。

私の青年部との出会いを思い起こすと、師匠の一言から始まり「あなた、青年部にお入りなさい！」青年部って何ですか？という私の問いに、師匠の答えは「いいから、まずお入りなさい」でした。半信半疑だった、この未知の活動は茶道という共通点を通して、多くの出会いの場を通じて、かけがえのない人たちとのご縁をいただき、今に至っています。予想もしない事が起きる今のような時代にも負

けずに、生き抜いてゆく力になるものに、心許せる生涯の仲間があります。裏千家の青年部はそんなパワーを生み出す場でもあります。時を経て師匠も亡くなった今、今度は私が若い茶人に言う番です。

「あなた、青年部にお入りなさい！」茶道が好きだという共通点を大事に、今後も青年部の活動の輪を広げ、北海道ブロックの未来がさらに輝かしいものとなることを後輩の皆様にご確信し、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 祝 辞



第十二代ブロック長  
辨野 宗博

風花が舞う立冬の佳き日に北海道ブロック五十周年開催を心よりお祝い申し上げます。

私がブロック長として主催した四十周年からはや十年の刻が過ぎました。

あの時、多くの仲間を支えられて周年行事を無事終えることが出来たことは何よりの宝です。  
組織は時代の流れの中で変革されながら次世代へと引き繋がれていきます。

あの時も変革の節目の中で支えてくれた役員や青年部部員と新しい姿を模索していました。  
賛同と批評が相まみえながらも一歩々進み次の世代へと引継いだつもりです。

今、世界を脅かしているコロナ禍のなかで現役の皆様が新しい姿の青年部活動や組織運営を試行錯誤しながら周年行事を迎えようとしていることに声援を送りたいと思えます。

この度の五十周年記念を機に北海道ブロックが新たな扉を開くことを御祈念いたします。

合掌

## 祝 辞



第十三代ブロック長  
平川 宗健

山々の峰が冠雪を迎える時候、北海道ブロック五十周年記念を開催されることを心よりお慶び申し上げます。

現代社会を脅かしているコロナ禍の中で試行錯誤しながら五十周年記念を開催される青年部の皆様のご奮闘に敬意を示します。

青年部を卒業して幾年月が過ぎ後輩たちの活躍を眩しく見つめる日々を過ごしております。

組織は時の移ろいと共にその姿形は変化するもの、変革の中で組織の舵を取る者と傍観者ではその先に見える景色に違いがあるのは当然のことであり、前者は希望を見つめ後者は固陋を語る。後にその立場が入れ替わることもある。

その時、後者だったものは何に気付くのか？

現役時代に教えて頂いた「組織運営は自分の物差しで計るより他人の物差しで計るほうが上手く行くものであり、組織の長は居心地の良い場所を作り後継者たちに譲り渡していくことが大切な仕事である。」

この言葉を五十周年の饞としたい。

次の世代を新しい姿で担っていく青年部の皆様が希望と勇氣を持って、青年部三信条のもと新時代を築き上げていかれることを、心より御祈念申し上げます。

合掌

## 祝 辞



第十四代ブロック長  
乙部 宗真

この度、青年部北海道ブロックが創立五十周年を迎えられました事、心よりお祝い申し上げます。

コロナ禍の収束が見えない中、現役の皆様方が試行錯誤しながら、日々青年部活動に励み、常に前進しようとしている姿に敬服しています。

私がブロック長を拝命した平成二十五、二十六年は、青年部が一支部一青年部になるなど組織改革が進んだ年でした。地区や各支部の親先生、ブロックの先輩方の叱咤激励と、ブロック運営を共に支えてくれた役員・事務局の皆様のご協力があつて乗り越えられたと、いま思い出しても深謝するばかりです。

先人が築いてこられた五十年があつて、今日のブロックがあります。これから未来を繋いでいく、北海道ブロックを構成する十七青年部の正会員お一人お一人のご活躍と、北海道ブロックのますますご発展をご祈念申し上げます。

## 祝 辞



第十六代ブロック長  
高玉 宗穂

茶道裏千家淡交会青年部北海道ブロック創立五十周年の節目を向かえられましたこと心よりお慶び申し上げます。長きに渡り、

坐忘齋御家元はじめ御宗家の皆様、淡交会総本部、地区、親支部の先生、諸先輩の方々より温かなご支援、激励を頂戴し、北海道ブロックは育まれてまいりました。

青年部は、年齢、所、社中の枠を超え目的を共有し、楽しみ、悩み、そして、達成する喜びを味わえる場所です。

今、コロナ禍で皆に会うことも活動することも、制限されていますが、オンライン活動の導入や今だからできるWeb座学など、青年部らしいひらめきとフットワークを駆使して、新たな一歩を進めて参りました。青年部三信条「修練」「奉仕」「友情」のもと、北海道ブロック諸先輩方の熱き思いを守り、仲間を信じ、時代に添う新たな活動を目指し、今こそ「守破離」を実践するとき。

これより歩む北海道ブロックの未来が、輝きと笑顔に満ち溢れていますよう祈っております。

※ 第二代ブロック長の余湖宗汀様は、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、生前、青年部の役職を歴任された輝かしいご活躍を偲び、『北海道ブロック四十周年記念誌』に寄せられたメッセージを再録いたしました。

※ 第四代ブロック長の津留崎哲彦様は、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、生前、青年部の役職を歴任された輝かしいご活躍を偲び、『北海道ブロック三十五周年記念誌』に寄せられたメッセージを再録いたしました。

※ 第五代ブロック長の高橋宗臣様は、ご療養中につき、『北海道ブロック三十五周年記念誌』に寄せられたメッセージを再録いたしました。



## 祝 辞

全国委員会委員長  
第十五代ブロック長 宮川寛隆

茶道裏千家淡交会青年部北海道ブロックが創立されて五十周年の佳節を迎えられますことを大変喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

北海道ブロックとしての第一歩を踏み出された当時、そしてこの五十年の長きに渡り、

北海道地区役員の皆様、全道各地の親先生方の多大なるご支援・ご理解、諸先輩に加えて青年部会員皆様のひとかたならぬご尽力による情熱的な活動に心より敬意と感謝を申し上げます。

大きく移り変わる時代の中、五十年という重みは、諸先輩方が数々の苦悩を乗り越え培ってこられた賜物だと感慨深く、これまで繋いでいただいた想いの歴史を今改めて強く感じているところで

淡交会青年部は昭和二十七年に広島・呉の地に発会されましたのを皮切りに、全国各地に二六七の青年部が設置されています。

平成二十五年の改編により、北海道ブロックでは現在十七の青年部が「修練・奉仕・友情」の三信条を拠り所として活動を続

けております。

ご存知の通り、新型コロナウイルス感染症拡大から一年半が経過しようとしている中、青年部活動が一変した現在ではありますが、今までにないコミュニケーションの取り方を模索し工夫を重ね、これまで以上に会員間の心を寄せ合うことが求められています。

このような時代だからこそ、裏千家茶道を学ぶ青年茶人として今何が必要か、何ができるかを実践して、心の豊かな社会をつくることのできる一人となるよう北海道ブロックが一丸となって歩んでいきたいと存じます。

結びとなりますが、五十周年という素晴らしい歴史と伝統を築いてこられました北海道ブロック先輩諸兄弟への敬意と感謝に加えて、誇りと情熱を胸に活動されております青年部会員の皆様が一層強く団結され「未来をつくる、その一歩」から、更なるご活躍ご発展されますことを祈念申し上げます、お祝いの言葉にさせていただきます。



## ご挨拶

ブロック長 武田恭子

本日、ここに茶道裏千家淡交会青年部北海道ブロックは創立五十一年を迎えることができました。これもひとえに

坐忘齋御家元、鵬雲齋大宗匠、丹心齋若宗匠はじめ、ご宗家の皆様、総本部、地区役員、親先生、先輩の皆様のご温かいご指導とお力添え、また、共に支え合う全道十七の青年部会員皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

昨年五十年の節目の年に、予想もしなかったパンデミックにより、全国大会の中止、周年行事の延期に追い込まれ、我々は新しい第一歩を踏み出すこととなりました。

「あゆみ」〜未来をつくる、その一歩〜  
昨年、高玉直前ブロック長が掲げた大会スローガンを受け継ぎ、迷いと決断の狭間を行き来することが度々ございました。

しかし、私達青年部は常に、ご宗家と親先生の懐に守られながら、「修練・奉仕・友情」の三信条のもと活動を続けて参りました。そこにはいつの時代も、「青年部らしさ」という新しい試みや冒険があり、先輩の熱い想いが今の私達の活動の礎となっております。

ます。

今大会、時世の状況をふまえ、オンラインという、新しい試みの開催形式をとらせていただきましたが、親先生や先輩の皆様に対し、このようなご案内になってしまったこと、またこのように多数のお申込みをいただいた皆様に直接のご挨拶が叶わないことをお許しください。

この五十年の年月。

北海道ブロック発展にご尽力くださった皆様の功績を伝えていくためにも、立ち止まるわけにはいきません。今、その機会を与えられたのは、我々の使命ほかならないと思います。いつの時代も変わらない茶道の精神を徹力ながら我々も守り後世に繋げて参ります。

今後とも私達青年部へのご指導とご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

合掌

# 北海道ブロック五十年のあゆみ

昭和52年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和48年	昭和47年	昭和46年	昭和45年
7月9～19日	6月20日 7月3・4日 10月9・10日	9月14日 5月24・25日	2月24日 6月15～25日 10月19・20日	4月1日 7月21日 9月22・23日	6月4日 9月22・23日	2月28日 10月9・10日	3月1日
第二回裏千家青年の船(沖縄・香港)	第七回北海道ブロック協議会総会(室蘭) 第四回青年部全国大会(京都) 第五回大雪青年の家研修会(旭川)	第四回大雪青年の家研修会(旭川) 第六回北海道ブロック協議会総会(函館)	第五回北海道ブロック協議会総会(帯広) 第一回裏千家青年の船(沖縄・香港) 第三回大雪青年の家研修会(旭川)	第四回北海道ブロック協議会総会(小樽) 第三回青年部全国大会(京都) 第二回大雪青年の家研修会(旭川)	第三回北海道ブロック協議会総会(札幌) 第一回大雪青年の家研修会(旭川)	第二回北海道ブロック協議会総会(旭川) ブロック研修会(大雪青年の家/旭川)	北海道ブロック協議会発会式(札幌)

昭和58年	昭和57年	昭和56年	昭和55年	昭和54年	昭和53年
10月10日 8月6・7日 6月4・5日	10月16・17日 8月2～9日 7月17・18日 5月22・23日	10月10・11日 8月6・7日 5月23・24日	9月14・15日 8月9・10日 7月6～19日 6月7・8日	7月7・8日 10月13・14日	9月24日 10月28・29日 10月9・10日
第十四回北海道ブロック総会(苫小牧) 第十二回北海道ブロック研修会(室蘭) 第四回北海道ブロック親子ジャンボリー(旭川)	第十三回北海道ブロック総会(釧路) 親子ジャンボリーと改名 第三回は各支部で実施 第十九次日中友好裏千家茶道文化交流団(中国) 第六回青年部全国大会(東京) 第十一回北海道ブロック研修会(函館)	第十二回北海道ブロック総会(伊達) 豪雨のため中止(空知・岩見沢) 第二回少年少女親子ジャンボリー 第十回北海道ブロック研修会(帯広)	北海道ブロック創立十周年記念式典 第十一回北海道ブロック総会(札幌第一・二) 第一回少年少女親子ジャンボリー(旭川) 第三回日中友好文化交流裏千家の船(中国) 第九回北海道ブロック研修会(小樽)	第五回青年部全国大会(京都) 第八回北海道ブロック研修会(札幌第一・二)	第九回北海道ブロック総会(空知) 第七回大雪青年の家研修会(旭川) 第十回北海道ブロック総会(北見)



## 茶道裏千家淡交会青年部 北海道ブロック創立50周年記念大会

### 日 程

日 時 令和3年11月7日(日) 13:20～16:00  
場 所 裏千家北海道茶道会館(ライブ配信)  
受 付 12:50～13:20 オンライン受付

### 【第一部】 13:20～14:20

#### 記念式典

#### 式次第

- 一、 開会の辞
- 一、 利休居士道歌唱和
- 一、 ことばの唱和
- 一、 黙祷
- 一、 青年部綱領唱和
- 一、 来賓紹介
- 一、 歴代ブロック長紹介
- 一、 ブロック役員紹介
- 一、 出席者紹介
- 一、 ブロック長挨拶
- 一、 坐忘齋千宗室御家元祝辞
- 一、 丹心齋千宗史若宗匠祝辞
- 一、 来賓祝辞
- 一、 祝電披露
- 一、 閉会の辞

### 【第二部】 14:30～15:00

#### 呈 茶

### 【第三部】 15:10～15:40

座談会「温故知新」～あのころはっ♪～

### 【第四部】 15:40～16:00

フィナーレ お楽しみ抽選会

昭和59年	6月2・3日 7月7～20日 8月4・5日 9月16日	第十三回北海道ブロック研修会(山見沢) 第四回日中友好文化交流裏千家の船(中国) 第五回北海道ブロック親子ジャンボリー(小樽) 第十五回北海道ブロック総会(網走)
昭和60年	6月1・2日 7月27・28日	第十四回北海道ブロック研修会(空知) 第六回北海道ブロック
昭和61年	5月31日 ～6月1日 8月2・3日 10月26日	裏千家ジャンボリー(札幌第一) 第十六回北海道ブロック総会(根室) 第七回青年部全国大会(京都) 第十五回北海道ブロック
昭和62年	6月6・7日 7月5～19日 8月2・3日 9月20日	親子合同研修会(札幌第二) 第七回北海道ブロック裏千家ジャンボリー(帯広) 第十七回北海道ブロック総会(旭川) 第十六回北海道ブロック親子合同研修会(北見) 第五回裏千家の船(中国) 第八回北海道ブロック裏千家ジャンボリー(函館) 第十八回北海道ブロック総会(札幌第三)
昭和63年	6月4・5日 8月6・7日 9月4・5日 10月30日	第十七回北海道ブロック親子合同研修会(伊達) 第九回北海道ブロック裏千家ジャンボリー(室蘭) 第八回青年部全国大会(京都) 第十九回北海道ブロック総会(苫小牧)
平成元年	5月20・21日 8月5・6日 10月1日	第十八回北海道ブロック 親子合同研修会(札幌第四) 第十回北海道ブロック裏千家ジャンボリー(釧路) 第二十回北海道ブロック総会(小樽)

平成2年	5月19・20日 7月28・29日	第十九回北海道ブロック 親子合同研修会(札幌第一) 第十一回北海道ブロック
平成3年	5月18・19日 8月10・11日 10月27日	第二十回北海道ブロック親子合同研修会(帯広) 第十二回北海道ブロック 裏千家少年少女ジャンボリー(札幌第二) 第二十二回北海道ブロック総会(山見沢)
平成4年	4月25・26日 6月6・7日 8月8・9日	第九回青年部全国大会(京都) 第二十一回北海道ブロック親子合同研修会(釧路) 第十三回北海道ブロック
平成5年	5月8・9日 7月5～17日 8月7・8日	裏千家少年少女ジャンボリー(旭川) 第二十三回北海道ブロック総会(北見) 第二十二回北海道ブロック親子合同研修会(小樽) 第六回裏千家青年の船(サイパン・グアム) 第十四回北海道ブロック
平成6年	4月23・24日 7月30・31日 9月3日 10月30日	裏千家少年少女ジャンボリー(札幌第三) 第二十四回北海道ブロック総会(札幌第四) 第二十三回北海道ブロック親子合同研修会(函館) 第十五回北海道ブロック 裏千家少年少女ジャンボリー(根室) 北海道ブロック合同認証式(札幌) 第二十五回北海道ブロック総会(室蘭)

平成7年	5月6・7日	第二十四回北海道ブロック 親子合同研修会総会(苫小牧)
平成8年	6月1・2日 6月24日 ～7月4日 7月27・28日	第十回青年部全国大会(京都) 第十六回北海道ブロック 裏千家少年少女ジャンボリー(山見沢) 北海道ブロック創立二十五周年記念式典(札幌) 第二十五回北海道ブロック 研修会総会(札幌第三しらかば)
平成9年	6月21・22日 8月3日	第二十六回北海道ブロック研修会総会(網走) 第十八回北海道ブロック 裏千家少年少女ジャンボリー(北見みんと)
平成10年	3月20～24日 4月29日 ～5月12日 6月6・7日	第八回裏千家青年の船(小笠原・硫黄島慰霊) 第十一回青年部全国大会 一〇〇日四〇〇リレー茶会 第二十七回北海道ブロック 研修会総会(札幌第二北斗)
平成11年	1月31日 5月15・16日 9月5・6日 8月1・2日	役員研修会(札幌) 第二十八回北海道ブロック研修会総会(旭川) 第十一回青年部全国大会(京都) 裏千家少年少女ジャンボリー(滝川・空知) 第十九回北海道ブロック 北海道ブロック茶会(札幌)

平成12年	10月17日 5月13・14日 8月12・13日	北海道ブロック茶会(札幌) 第二十九回北海道ブロック研修会総会(根室) 第二十回北海道ブロック
平成13年	1月28日 6月23日 ～7月3日 8月25・26日	四役・会計研修会(札幌) 第九回裏千家青年の船(天津・北京・大連) 第三十回北海道ブロック 研修会総会(札幌第四もの芽)
平成14年	4月20・21日 5月19・20日 6月29・30日	第三十一回北海道ブロック研修会総会(帯広) 北海道ブロック宗家研修(京都) 第二十一回北海道ブロック
平成15年	7月19～21日 2月23日 4月26・27日	裏千家少年少女ジャンボリー(小樽) 第一回サマーコンファレンス(東京) 役員研修会(札幌) 第三十二回北海道ブロック 研修会総会(札幌第三ゆきはな)
平成16年	5月7・8日 8月28・29日 9月5・6日 10月26日	第三十三回北海道ブロック研修会総会(釧路) 第二十二回北海道ブロック 北海道ブロック茶会(札幌) 第十三回青年部全国大会(京都) 北海道ブロック茶会(札幌) 第三十三回北海道ブロック研修会総会(釧路) 第二十二回北海道ブロック 裏千家少年少女ジャンボリー(室蘭)

平成28年



ブロック研修会



ブロック研修会 懇親会「スタンツ」

5月21日  
6月17～19日  
11月27日

第四十五回ブロック研修会(函館)  
ナショナルコンファレンス2016  
(福島県いわき市)  
ブロック茶会(札幌)



NC2016 北海道ブロック



NC2016 懇親会



ブロック茶会 濃茶席



ブロック茶会 薄茶席

平成22年	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年	平成17年
3月20・21日	2月15日 5月16・17日 10月1日～平成22年3月19日	5月10・11日 7月18～20日 8月9・10日	5月12・13日 10月28日	6月3・4日 6月23日 8月5・6日 9月29日 ～10月1日	2月27日 5月14・15日 6月19・20日 7月22～24日 11月20日
第十五回青年部全国大会(京都)	役員研修会(札幌) 第三十八回北海道ブロック研修会(札幌第四りら) 第十五回青年部全国大会アレ行 北海道ブロック茶会 「わたしの一盤」運動	第三十七回北海道ブロック研修会(北見みんと) 第三回サマーコンファレンス(東京) 第二十四回北海道ブロック 裏千家少女ジャンボリー(札幌第一楡)	第三十六回北海道ブロック研修会(札幌第二北嶺) 北海道ブロック茶会(札幌)	第三十五回北海道ブロック研修会(札幌第一柏) 第十四回青年部全国大会 一〇〇日四〇〇リレー茶会 第二十三回北海道ブロック 裏千家少女ジャンボリー(紋別・きたみ) 第十四回青年部全国大会(京都)	役員研修会(札幌) 第三十四回北海道ブロック研修会(伊達) 北海道ブロック宗家研修会(京都) 第二回サマーコンファレンス(東京) 北海道ブロック創立三十五周年記念式典(札幌)

平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	
2月22日 5月30日 7月26日 11月22日	5月16～18日 7月12日 11月23日	2月17日 5月18日 9月1日	5月19日 7月21～23日 12月9日	2月20日 5月14・15日 7月30・31日	
役員研修会(札幌) 第四十四回北海道ブロック研修会(札幌第二) 第一回子供茶道教室(苫小牧) 北海道ブロック創立四十五周年記念式典(札幌)	ナショナルコンファレンス2014(京都) 第四十三回北海道ブロック研修会(北見) 北海道ブロック茶会(札幌)	役員研修会(札幌) 第四十二回北海道ブロック研修会(室蘭) 北海道ブロック茶会(札幌)	第四十一回北海道ブロック研修会(小樽うしお) 第四回サマーコンファレンス(東京) 北海道ブロック茶会(札幌)	役員研修会(札幌) 第四十回北海道ブロック研修会(札幌第四鈴華) 第二十五回北海道ブロック 裏千家少女ジャンボリー(函館ともえ)	第三十九回北海道ブロック研修会(滝川・空知) 北海道ブロック創立四十周年記念式典(札幌)

平成30年

3月2〜4日  
5月19日  
7月7・8日  
11月18日

ナショナルコンファレンス2018(京都)  
第四十七回ブロック研修会(苫小牧)  
第五十五回北海道地区大会  
青年のつどい(札幌第三)  
ブロック茶会(札幌)



グループ呈茶



地区大会 青年のつどい  
千敬史様と伊住禮次朗様との座談会



NC2018 グループ別研修



ブロック研修会 お呈茶席



ブロック茶会



平成29年

2月26日  
5月20日  
7月30日  
11月26日

役員研修会(札幌)  
第四十六回ブロック研修会(岩見沢)  
第二回子供茶道教室(伊達)  
ブロック茶会(札幌)



ブロック研修会 大樋長左衛門先生 講演



ブロック研修会 懇親会



子供茶道教室 茶道の歴史について



子供茶道教室



役員研修会 グループ発表



ブロック茶会

令和2年



7月5日  
10月17日  
11月14・15日

北海道ブロックZOOM茶会(オンライン)  
北海道ブロックオンライン研修会(オンライン)  
北海道ブロック創立五十周年記念大会  
COVID-19のため延期



北海道ブロックオンライン研修会  
石原義清先生(俵屋吉富)講演



北海道ブロックZOOM茶会  
画面の向こうでお点前



北海道ブロックZOOM茶会 みんなで一緒に一服

令和元年

2月24日  
5月25・26日  
7月28日  
9月22日

役員研修会(札幌)  
第四十八回ブロック研修会(札幌第二)  
第三回子供茶道教室(空知)  
ブロック茶会(札幌)



役員研修会 グループ別研修



ブロック研修会 谷村丹後先生 講演



子供茶道教室



子供茶道教室 すはま作り体験



ブロック茶会



# 北海道ブロック歴代役員紹介

年 度	ブロック長	副ブロック長	ブロック幹事長	ブロック副幹事長	ブロック会計	ブロック監事
昭和60・61年	新田 美奈子	佐藤 八重子	中野 勝雄	田所 英国子彦	前堤 山陽子	谷原 口布佐子
昭和58・59年	高橋 佐臣	佐藤 八重子	新田 美奈子	中野 勝雄	堤高橋 幸子	原坂 守昭
昭和56・57年	津留崎 哲彦	原高橋 佐展子	新田 美奈子	阿部 周八重子	高德 橋田幸瑛子	松遠 平藤敦子
昭和54・55年	徳丸 義明	津留崎 哲彦	広田 展子	高橋 佐臣	長原 崎永きよみ	松前 平田敦暁子
昭和52・53年	徳丸 義明	川村山 裕英子	伊藤 康男	林田 重昭		谷林 口田布重佐子
昭和50・51年	余湖 汀一	川竹村本 裕智子	徳丸 義明	伊藤 康男		
昭和48・49年	余湖 汀一	林竹田本 重智昭香			伊服 藤部康令男子	
昭和47年	余湖 汀一	小竹山本 英智教香				岡松 部浦尚敬丸子
昭和46年	小泉 涉	佐藤 湖汀子	徳丸 義明		柳内 島海道芙美子	服部 浦令久子
昭和45年	小泉 涉	群藤 尋和子	徳丸 義明		千伊 葉藤輝康雄	

令和3年

2月14日  
5月15日  
11月7日

役員研修会(千歳・オンライン)  
第四十九回北海道ブロック研修会  
(網走・オンライン)  
北海道ブロック創立五十周年記念大会  
(札幌・オンライン)



役員研修会 三役は千歳会場から配信



役員研修会 オンラインで討議に参加



ブロック研修会 岡能久先生 講演



ブロック研修会 オンライン呈茶

令和元・2年	平成29・30年	平成27・28年	平成25・26年	平成23・24年	平成21・22年	平成19・20年
高玉美穂	宮川寛隆	宮川寛隆	乙部真貴子	平川健一	辨野博之	(伊賀淳貴) 1月4月 (辨野博之) 5月12月
大佐和佳勝	安小島希英望	高木玉野美穂	宮畑川井寛奈隆美	小武島英恵子	武乙平田部川恭真貴子	(辨野博之) 1月4月 (高田美恵子) 1月4月
安本希望	高玉美穂	小島英恵	小島英恵	乙部真貴子	向島みどり	元田千寿
石森小田智子	小谷國本里香美	川長谷本昌祥子	梶田長谷間由美	田長奥内山山裕美子	上田内嶋中山香里子	西内平原山由佳子
伊関藤口千操	関宿院千香史	宿佐院香佳里子	佐斎渡藤佳子	窪斎田藤佐智子	窪長谷田川佐佳智子	長乙谷川部真貴子
小宮島英恵	長武谷川昌子	平武田明子	平武川田健一子	上向嶋島香みどり	吉元岡田美千佳	片岸木法なぎさ

平成17・18年	平成15・16年	平成13・14年	平成11・12年	平成9・10年	平成7・8年	平成5・6年	平成3・4年	平成元・2年	昭和62・63年	年度
岡部裕子	岡部裕子	成田富貴子	成田富貴子	大八木かほる	大八木かほる	中野道晴	中野道晴	中野道晴	新田美奈子	ブロック長
井口美喜	伊賀明美	谷藤進太郎	加藤康広	伊藤富貴子	成田富貴子	大松八木村かほる	伊村賀重淳貴	伊黒藤木國俊昭	中山野本勝雄	副ブロック長
高谷美恵子	鈴木なぎさ	岡部裕子	岡部裕子	岡部裕子	伊藤國昭	伊賀淳貴	堤さえ子	堤さえ子	堤さえ子	ブロック幹事長
平川健一	片井岸口法恵	渡久辺保明美		加藤康広	寺岡島房裕子	大成沢田恵富貴子	大八木かほる	大八木かほる	伊藤國昭	ブロック副幹事長
武元田恭子	元高田千美恵子	高阿部美祐恵子	高渡谷辺美恵子	瀬渡川辺さとみ	渡長辺崎明美子	長西崎村百合子	成西田村富貴子	佐小藤森三保子	小佐々森順久美子	ブロック会計
福田野明美	加藤富貴子	米中澤尾明孝	西大八木村百合子	安伊達賀政市貴	武村田重務	村佐々木重久美子	佐伊々木藤久美子	中國野島勝雄	前原山陽きよみ	ブロック監事





ANNIVERSARY

## 17青年部と、一つの大地。

17本のラインは、北海道ブロックの17青年部を表します。

その一つひとつの青年部がしっかりと繋がり

広大な大地を描き出します。

どこよりも広い大地をフィールドに

どこよりも強く結ばれた絆で

これからの新しい時代を歩んでいきます。

ロゴデザイン 鏡 浩 二  
(札幌第四青年部)

茶道裏千家淡交会青年部

### 北海道ブロック創立50周年記念誌

発行日 令和3年11月7日

発行責任者 武田 恭子

編集責任者 安本 希望 高玉 美穂  
小形 里美  
須藤 和恵

印刷 株式会社 中央広版社  
札幌市中央区北6条西28丁目3番16号  
TEL 011-631-9339